



あかるく・やさしく・たくましく

■入園・進級おめでとうございます！

桜の季節となりました。東京の桜の名所の一つでもある「目黒川」では、人工的な高い堤防から斜め下の川面に向かって、桜の枝が懸命に伸びています。その様子はさながら桜が水を求めているように見えなくもないですが、一つの理由として、陽光の当たる方向に枝葉が伸びることがあります。故に、上からの陽光と川面からの反射光に反応し、川面に近付いていくということらしいのですが、くしくも、反射光に向かって伸びた結果、あの人工的な堤防とのコラボが印象的な独特の造形美が生まれました。

第4波が懸念されているコロナ禍ですが、このコロナ禍を長いトンネルに例えると、トンネルを抜けた先にある陽光はまだまだほど遠い気がします。わずかに見える光が本物なのか、あるいは反射光なのか、はたまた全く違う何かなのか、確かめる術はありませんが、一歩ずつその光に向かうことが、私たちに今できることであり、結果として、目黒川の桜のように、「ポストコロナ」の新たな形（世界）、より成熟した社会に繋がればと思います。無心に自分のやるべきことをやるのが、時に意図しないよい結果を産むことがあります。

子どもたちも同じです。とかく損得勘定で考えてしまいがちな今の世の中ですが、損得勘定ではなく、自分の与えられた環境を楽しみ、BESTを尽くすこと、自分のできる精いっぱいのことを考え、瞬間瞬間に実行することが、経験値をあげるだけでなく、人と人の新たなつながりを作り、新たなステージへと自分自身を引き上げてくれるチャンスへとつながります。

昨年度は、「大学入試改革」元年でもありました。見て

いる限りはなかなか紆余曲折の状態ですが、改革に混乱はつきものでもあり、目指すべき方向性はわからなくもありません。しかしながら、学習指導要領の標題ともなっている「主体的で対話的で深い学び」を文字だけで捉えらるといつい勘違いしがちです。本当の意味でこれからのグローバルなAI時代に必要な力とはなんなのでしょう？ディベートやディスカッションが重要視され、探求心を持って主体的に取り組む力が重宝される昨今ですが、そういった力をつけるためにすべきことをまずは考えなくてはなりません。単に自己主張を言い合っているだけでは意味もなく、自身の知識と相手の知識を照らし合わせながら、より深い学びへとつなげることが大切なので、結局のところ「知識」は必然的に必要となります。ただ、以前のような詰め込み教育ではなく、主体的に取り組める環境づくりが重要となるわけなので、学校も色々と試行錯誤しているところなのですが、すべての素地となるのが「自己コントロール・自己抑止力」です。子どもに限らず大人も同様ですが、今、自分のすべきこと（目的）を認識し、それに基づいて行動しているかという事です。例えば、日常生活においては「人前でしていいこと」と「悪いこと」のように自然に意識していることもあります。その意識づけの強さの範囲がこれからの成長、学びに大きな影響を与えるという事です。もちろん、これも成長の中のある一つの側面でしかありませんが、重要な要素であることも事実です。

そういったことも園では意識しつつ、「あかるく・やさしく・たくましく」バランスのある教育活動を取り組んでまいります。1年間、どうぞよろしくお願い致します。

園長 野口 大仁